

Computer Report

Vol. 58 No. 3 3月号 (通巻762号)

はじめの言葉

■日本を代表する企業群による基礎的データ改竄、それをベースとする不正行為が続出、否、正確に言えば、隠蔽されてきた様々な闇の情報が次々に表面化されてきている。まさに情報公開を是とする情報社会の面目を保っているとも言えるが、内実的に見て、日本が根本から崩壊している様が見て取れる。それをさらに裏付けているのが、相次ぐ政府／行政官庁による事実情報／データの改竄と隠蔽体質の実態である。

■森友問題での関連書類の存在を隠し続けた現国税庁長官の惚け顔の薄気味悪さには、ほとんどの日本国民をして閉口させられたと言える。印象操作なる言葉が流行っているようだが、何の操作もなくストレートに不信感に満ちみちた表情を見せていた。到底真実が語られていたとは思えなかった。果たして、彼の証言を覆す関連書類の存在が確認されたのは衆知の通り。大多数の国民が国会喚問を求めているのは当然のことだろう。

■ご褒美としてだったのだろう、結果として栄転出世し現職に就任している。直属の上司である麻生財務大臣は、引き続き現職を担当させると言い切っている、誰にとって都合のいい証言であったかは、国民が知るところである。それにしても、この呆れるほどまでに現政権に忠実な国家官僚の在り方に驚くばかりだが、これほど子供じみた茶番劇がまかり通るとは、我が国日本の民主主義レベルも地の底に落ちている。

■安倍政権の目玉政策だとされる働き方改革＝裁量労働をめぐる国会での与野党間の攻防もお粗末なものである。恐ろしく杜撰な基礎データが飛び出し、国民を驚かせている。言うまでもなく高級官僚によって準備されたものである。政権政府寄りに改竄されたと思われる調査データが堂々と登場。しかもそのいい加減さが暴露／指摘され、首相自身が発言撤回をする事態にまでなっている。笑止千万。ここまできると笑うしかない。

■日本の高級官僚たち、幼少のころから限りなく神童に近いと目されてきた優秀な人材が多いはずだ。それが極く普通の子供にもバカにされるような偽装データ作りに精を出す。そうしていれば高給が保証され、さらには佐川国税庁長官同様、将来的な栄転が待っている。個人的な行動様式としてはあり得るだろう。しかし国民感覚としてはやり切れない。しかも安倍政権は、問題データの真偽を調査／再評価の必要性を認めない。

■働き方と一口で言っても、仕事にはスタッフ業務とライン業務とがある。裁量労働とは、スタッフ／ラインのどちらの仕事を対象／念頭に言っているのだろうか。また成果主義か拘束時間主義かによっても働き方の議論は異なるはずだ。前号でも指摘したように、同一労働／同一賃金など、耳障りの良さだけを強調していても、労働の在り方／本質の論議とはならない。その辺が与野党の論議でも見えてこない。本当にやり切れない。

■本質的な議論を深めようとする姿勢を見せないまま今国会での法案提出だけを急ぎ、あとは数の論理で成立を狙う安倍政権、日本人の働き方をどこに導こうとしているのだろうか。政府主導で賃金の引き上げを企業側に働きかけているが、とてもではないが、十分な成果が出ているとは言えない。当たり前である。手短な大手企業に限っての働き掛けでしかないからだ。豊かな国民作りのための働き方改革とはほど遠いようだ。(藤見)